

【 第15回 女子ジュニアアジア選手権 】

2019年7月20日～7月29日 レバノン・ベイルート

試合結果報告 7月24日 (水)

JAPAN	vs	レバノン
17	1st	10
14	2nd	13
	ex	
	ex	
31	TOTAL	23

個人得点

No.	NAME	1st	2nd	ex	ex	TOTAL
1	榎 真菜	0	0			0
2	田淵 美沙	1	1			2
3	上田 遥歌	3	1			4
4	阿部 美幸	1	0			1
5	谷藤 悠	1	2			3
8	弓削 春風	0	1			1
9	岡田 彩愛	3	2			5
10	平野 宗香	2	2			4
11	守屋 葵	0	0			0
12	大山 めい	0	0			0
13	安田 つぐみ	0	1			1
14	瀧川 璃紗	1	1			2
15	宇治村 唯	2	0			2
16	上嶋 亜樹	0	0			0
17	橋口 和佳奈	0	1			1
18	竹内 琉奈	3	2			5
TOTAL		17	14	0	0	31

戦況

3戦目は開催国レバノンと対戦。レバノンにとっては世界選手権初出場を決定づける重要な一戦ということもあり、今大会1番の観客の中での試合となった。立ち上がりから日本のアグレッシブDFが機能し、1対1の状況で全てフリースローに抑える。相手をパッシュプレー寸前まで追い込みなかなか得点を許さないが、日本のセットOFでは相手の6-0DFに対して、サイド、ロングなどのチャンスは作れるもののシュートが中々決まらない。日本の出足の隙をつくかのように左バック・アンドレに連打を許してしまい、いきなり0-2と悪い雰囲気の流れ始める。

しかし、相手ミスからの速攻という日本の得意な展開に持ち込むことができ始めると、前半10分には6-3とリードを奪う。日本国内では経験することのできない中東特有の力強い1対1に苦しみながらも、DFからの速攻でさらにリードを広げ、前半を17-10で折り返す。

ハーフタイムでは、DFで1対1を負けた際のフォローDFのハードコンタクトについて確認した。しかし、後半立ち上がりから相手のサイドやセンターの1対1を守りきれず、立て続けに2度の7mスローと退場を与えてしまい、3連続失点。日本も今大会初出場のセンター・岡田によるカットインプレーによって相手選手の退場を誘う。安田の7mスローや平野のサイドで2点を返すが、ボナーとセンター・マルコビッチの1対1を止められず、再び退場を重ねてしまい、後半18分には23-21と2点差にまで詰め寄られる。ここでタイムアウトをとり、DFと速攻について再度確認した日本。その後、瀧川、竹内、谷藤などの速攻により6連続得点を重ね、最終的には31-23で勝利を取めた。

報告記入者 :

永野 翔大